

2009 年度後期 利用説明会開催予定

 JDreamII 科学技術、医学・薬学関連 国内外文献データベース	10/27(火)	箱崎 10:30-11:30	
	10/28(水)	大橋 13:30-14:30 伊都 10:30-11:30	筑紫 16:40-17:40 病院 15:00-16:00
 CiNii 国内雑誌文献データベース	11/24(火)	文系 16:40-18:10	
	11/25(水)	箱崎 13:00-14:30	
	11/26(木)	大橋 13:00-14:30	
	11/27(金)	伊都 13:00-14:30	
 SciFinder Web 化学および関連科学情報 データベース	12/ 8(火)	箱崎 ①14:50-16:20	
	12/ 9(水)	箱崎 ②10:30-12:00 ③13:00-14:30	
	12/10(木)	伊都 ①10:30-12:00 ②13:00-14:30 ③14:50-16:20	
	12/11(金)	病院 ①10:30-12:00 ②13:00-14:30 ③14:50-16:20	
 医中誌WEB 医学・歯学・薬学関連 国内文献データベース	1/21(木)	大橋 10:30-12:00 病院 14:50-16:20	
	1/22(金)	箱崎 10:30-12:00 病院 14:50-16:20	
 RefWorks 文献情報収集・管理・共有 参考文献リスト作成ツール	2/ 9(火)	Web (研究室や自宅で受講できます)	
	2/12(金)	Web (研究室や自宅で受講できます)	

※スケジュールは変更になる場合があります。

詳細は、随時 [図書館ウェブサイト](#)>[図書館ニュース](#)【イベント・講習会】に掲載します

お問い合わせ:附属図書館 eリソースサポート窓口
 E-MAIL:esupport@lib.kyushu-u.ac.jp TEL:092-642-2336

図書館員の

おしゃべりコラム

私の働く伊都図書館は、半年余り工事現場でした。

作業員が頻繁に出入りし、至るところに養生のシートが敷かれ、窓の外には足場が見えました。頭上から工事の轟音が降り注ぎ、ときにゴジラの足音、動物園のバレード、マシンガンの音、虫歯の治療の音だったりして、電話中だと特に苦勞しました。雨漏りで本が濡れないように本棚の上にビニールを張り、帰宅時はパソコンにポリ袋を被せていました。地下に下りるエレベータが使えず、重い物も階段で運ばないといけません。二ヶ所あるトイレの片方は使えない状態で、給湯室まで一ヶ月閉鎖されたのは困りものでした。エントランスホールに囲いができて館内が狭くて真っ暗になったかと思えば、事務室の照明がスイッチを押しても消えなくなり、蛍光灯を外して帰ったこともありました。

これほどの大工事にもかかわらず休館せずに通常通りサービスを続けたのは、図書館への強い期待に応え、その使命を果たすためです。不便や苦勞は絶えませんが、利用者も職員も工事関係者もみんな歯を食いしばってなんとか乗り切りました。

(伊都図書館 T.A.)



お待たせしました 伊都図書館10.1 リニューアル オープン!



CONTENTS

- つなぐ「図書館に蓄積される情報」 附属図書館研究開発室 准教授 馬場謙介
- NEWS
- 図書館のスペース、使ってみませんか?
- 2009年度後期 利用説明会開催予定
- 図書館員のおしゃべりコラム
- 特集「伊都図書館はこんなところ」

図書館に蓄積される情報

アメリカの映画「セブン」の中で、刑事が殺人事件の犯人を、図書館の利用履歴から捜す場面があります。この刑事はその情報を個人的な人脈を使って入手するのですが、この描写から次のようなことが想像できます。「図書の閲覧履歴から犯罪捜査等に役に立つ情報が得られる」、また、「図書の閲覧履歴は簡単に他人に見せるものではない」ということが、映画ですから事実かどうかはともかく、映画を観る人に求められる認識として(少なくとも、15年ほど前のアメリカでは)さほど違和感のないものだろうということです。

実際はどうでしょうか？図書館ではありませんが、インターネットを通じて買い物をする「お勧め商品」が表示されることがあります。これは、大抵、購買履歴を調べることで実現されています。売る側にとっても、このような履歴の統計的な解析がマーケティングの基礎的な技術のひとつになっています。「履歴から役に立つ情報が得られる」というのは事実と思って良さそうです。図書の閲覧履歴の中にも、きっと利用者や図書館にとって役に立つ情報が潜んでいるはず。もうひとつの命題についても、ほとんどの図書館のプライバシーポリシーはインターネットで見ることができ、そこには「履歴は簡単には他人に見せない」と書いてあるはず。その根拠となる法律や条例等も掲げられ、その意味では、この命題も事実と思って良さそうです。

しかし、「履歴から役に立つ情報を得る」とことと「履歴を他人に見せない」ことはしばしば矛盾する状況を生みます。「お勧め商品」が表示されて、便利だと思う反面、なんだか覗き見されているような気分にもなります。この問題は、前述の法的な側面に加え、暗号化の



附属図書館研究開発室准教授 馬場謙介

ような情報科学の技術により解決されるべきだと思います。これには、個人を特定せずして認証したり、探している語を知らずして検索を行ったりする技術を、図書館の運用にあわせて適用していく必要があります。

さて、そこまでして、図書館の履歴から何の情報が得られるのでしょうか？

私が学生で研究室に配属されたとき、研究に関する論文を図書館で探したことがありました。当時(ちょうど冒頭の映画が公開された頃です)はまだインターネットで入手できる論文に限られており、それまで足を踏み入れたことのない(!)図書館で右往左往したものです。どうにか見つけた本の最後に挟んである図書カードには、研究室の教授をはじめ先輩方の名前がずらりとならんでおり、「よかった、この論文で間違いないんだ」と思った記憶があります。

自分の研究分野の研究者がどう論文を読んできたかという情報は、研究者にとって知りたい情報で、一部の優れた研究者についてだけではなく、研究者全体についての傾向も知りたいものです。そしてそこには、研究の単純なトレンドだけではなく、本質的な進歩の過程が反映されているはず。図書館には、特に、専門書が多くあり最先端の研究者が多く利用してきた大学の図書館には、蔵書の他に、そういった情報が脈々と蓄積されているのだと思います。



馬場 謙介(はば けんすけ)：
2009年8月1日より現職。機関リポジトリの新しい形態の創出へ向けて奮闘中。肖像写真は(4歳)による。

自著紹介 本学教員より寄贈いただいた著作です。ぜひ読んでみてください。



芸術工学研究院 教授 河辺 哲次

「マクスウェル方程式：電磁気学がわかる4つの法則」

ダニエル・フライシュ著、河辺哲次訳
岩波書店 2009.3



手にした瞬間に、読んでみたいと思う本に出会うことが時々あります。一文学書ならばその出だしや書きぶり、美術書なら目に飛び込む色彩やタッチで、理工系の本で、そのような瞬間を経験することはあまりないでしょう。でも、ケンブリッジ大学出版局の原著を目にした瞬間、私は魅せられました。コンパクトなサイズにも拘わらず、電磁気学のもっとも重要な概念や法則が、豊富なアナロジーを使ってビジュアルにピビッドに説明されています。そして、4つの法則の積分形と微分形を同等に扱うことで、マクスウェル方程式に自然に辿りつく論構成には高いオリジナリティがあります。微分形は「場」の概念的数学的表現法なので、これに習熟することは、現代の自然観・物質観を理解する上で役立ちます。原題の A Student's Guide to Maxwell's Equations が示唆するように、この本は、超越とびえるマクスウェル方程式という4連峰の登攀をアシストする名ガイドになるでしょう。

【中央図書館/伊都図書館/芸術工学図書館/建築図書館に所蔵】

このほか、以下の教員より著作をご寄贈いただきました。

芸術工学研究院 教授 中島 祥好

「ICMPC 10 : Proceedings of the 10th International Conference on Music Perception and Cognition, 25-29 August 2008, Sapporo, Japan」

Ken'ichi Miyazaki, Mayumi Adachi, Yuzuru Hiraga, Yoshitaka Nakajima, and Minoru Tsuzaki
c.2008 【芸術工学図書館に所蔵】

人文科学研究院 准教授 静永 健

「から船往来：日本を育てたひと・ふね・まち・こころ」

東アジア地域間交流研究会(代表：静永健)編
中国書店 2009.6



日本とは何か、アジアの国々々々はどのように成立しているのか、その全貌を知るのは容易ではない。「歴史」と言っても、私たちが現在をみつらみ目しているものは、東京や北京、ソウルといった首都から的一方(一面的)な見方であるからだ。近代以前ならば、なおのことこれは注意したい。日本と中国の文化交流は、すべて「船」で行われた。すると博多や長崎、中国の寧波(ニンポー)といった町が、歴史的にどのような役割を持っていたのか、そこでどのような人々の営みがあったのか、そのことを文学や芸術、宗教などさまざまな角度から捉えることが重要である。みなさま!「アジアのなかの日本」を感じてください。

【中央図書館/伊都図書館に所蔵】

経済学研究院 教授 大下 丈平

「現代フランス管理会計：会計、コントロール、ガバナンス」

大下丈平著
中央経済社 2009.7
【中央図書館/文系合同図書館に所蔵】

言語文化研究院 教授 Wolfgang Michel

「九州の蘭学：越境と交流」

W・ミヒエル、島井裕美子、川高貴人共編
思文閣出版 2009.7
【伊都図書館に所蔵】

NEWS

図書館のシステムが新しくなります

図書館システムの更新に伴い、12月より、以下の点が変更になります。

- 教職員の図書館利用者票が、IC職員証(もしくはバーコード付きSSO-KIDカード)に変わります。
*IC職員証の申請はこちらから → <http://card.kyushu-u.ac.jp/shinsei/shinki.html> (九州大学 全学共通ICカード運用事業室)
- きょうとOPAC、きょうとMyLibraryが新しくなり、全学共通ID(学生ID及びSSO-KID)による認証に切り替わります。

※詳しくは、図書館のウェブサイト等にて順次ご案内します。なお、システムの更新に伴い、サービスの一部を一時停止することがありますので、ご理解ご協力ください。よろしくお願ひいたします。

文学部85周年/文学部60周年記念事業 「はごろもプロジェクト」より

展示会「仙厓展 -九州大学文学部所蔵中山森彦コレクション-」のご案内

昨年5月図書館にて展示会を開催しました九州大学文学部所蔵の仙厓和尚の書画等が、福岡市美術館において再び展示公開されます。ぜひ足を運びください。

10月3日(土) ▶ 11月29日(日) 会場:福岡市美術館 古美術企画展示室
入場料:一般200円、高大生150円、小中生無料 主催:九州大学文学部/福岡市美術館

シンポジウム & 展示会「九州大学所蔵の史資料 -過去・現在・未来-」のご案内

九州大学が所蔵する貴重な文化財資料の意義を再検証する公開シンポジウム及び展示会が開催されます。(入場無料)

【シンポジウム】

日時:12月12日(土)13:30-17:30
会場:中央図書館視聴覚ホール
主催:九州大学文学部/九州史学会
後援:九州大学附属図書館
報告者:ナベラ:宮本一夫(人文科学研究院教授・考古学)、田尻義士(埋蔵文化財調査室学術研究員・考古学)、
吉田昌彦(比較社会文化研究院教授・日本史学)、
竹村則行(人文科学研究院教授・中国文学)
コメントーター:後小路雅弘(人文科学研究院教授・芸術学)

【展示会】

日程:12月10日(木)-13日(日)(予定)
会場:中央図書館2F特設展示会場

図書館のスペース、使ってみませんか？

◆中央図書館の常設展示コーナーにあなたの作品を！

中央図書館ロビーの常設展示コーナーを、研究やサークル活動の成果を広く発表する場として貸し出しています。サークルや授業で制作した作品の展示や研究成果の発表などにご活用ください。

※「常設展示コーナー企画書」を作成のうえ、中央図書館カウンターまたはメールにて下記までご提出ください。

利用支援課サービス企画係
TEL:092-642-2533 E-MAIL:circ2@lib.kyushu-u.ac.jp

◆利用者用掲示板あります

中央図書館2F情報サロン横に、イベント掲示板を設けています。サークルの演奏会・公演のポスターなど、学生のみならずの情報交換の場としてぜひご活用ください。

※掲示したいチラシ、ポスター等を持参のうえ、中央図書館カウンターまでお申し込みください。
なお、サークルへの勧誘目的の掲示等、掲示できない場合があります。

◆授業にもご活用ください

中央図書館では、図書館の資料や情報設備等を活用した授業(課題を与えての資料収集からレポート作成までの実習等)や情報端末を利用したデータベース利用の教育の場として、下記の施設をご利用いただけるようになりました。

※「中央図書館施設利用申込書(授業用)」に必要事項を記入の上、利用希望日の7日前までに中央図書館カウンターまたはメールにて下記までご提出ください。

利用支援課資料サービス係
TEL:092-642-2333 E-MAIL:circ1@lib.kyushu-u.ac.jp



授業に使用できる施設 (中央図書館)

名称	席数	備付PC
第2情報サロン	18	19
演習室A	8	無
演習室B	8	無
演習室C	12	無

様式は、[図書館ウェブサイト](#) > [各館の利用](#)【中央図書館】 > [各種申込書ダウンロード](#) よりご利用下さい。



伊都図書館長
和田 清

平成17年に工学系部局の伊都キャンパスへの移転に合わせて設置された理系図書館は、この4月に六本松キャンパス等の移転に伴い、伊都図書館と名称が変わりました。それは工学系ばかりでなく、全学教育及び文系の学生・教職員へのサービス提供を担うことになったためです。地下1階、地上1階だった建物は、7月末に地下1階、地上3階の増築工事が竣工し、いわゆる文系の資料を含む約91万冊の資料を擁する図書館として10月にリニューアルオープンしました。

図書館の中には友達と一緒に話しながら勉強できる部屋や静かに勉強する部屋、個室などさまざまなシチュエーションに対応できる部屋がたくさんあります。DVDやビデオの鑑賞もできます。勉強だけでなく楽しむ空間が図書館にあります。ロビーにはカフェもオープンしました。

図書館の場所は、ほぼウエストゾーンとセンターゾーンの間地点にあるため、互いに距離感がありますが、これまで別のキャンパスであった学生や教職員の交流の場としても活用して頂ければと思います。図書館に足を運ぶことにより、意外な本との出会いだけでなく、人との出会いもあるかも知れません。

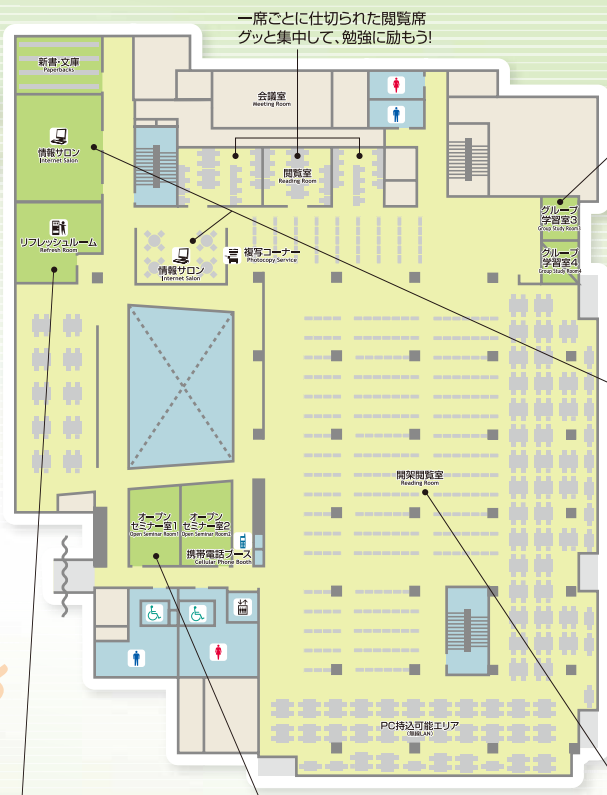
職員一同、皆様方のご来館をお待ちしております。



伊都図書館は

2F

座席数もぐんとふえて、いろいろな部屋ができました



グループ学習室
Group Study Room
仲間と一緒に勉強しよう
プレゼンの練習なんかに使えるよ



情報サロン(30台/20台)
Internet Salon
調べものやレポート作成、インターネットも使えるよ
プリントアウト(有料)もOK



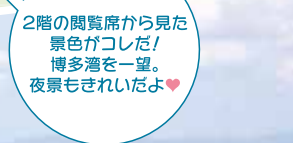
2階開架閲覧室
Reading Room(2F)
344席
収容能力約13万冊



リフレッシュルーム
Refresh Room
ちょっと休憩したいときはココで(飲食もOKよ!)



オープンセミナー室
Open Seminar Room
申し込みなしで自由に使えるお部屋
グループでもおひとりでもどうぞ



2階の閲覧席から見た景色がコシだ!
博多湾を一望。
夜景もきれいだよ♡

増築工事の様子



2008年12月
まずは足場をつくって、



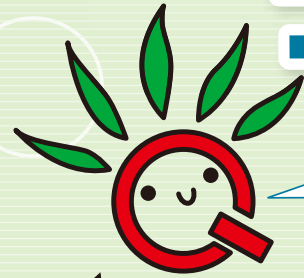
2009年2月
どんどん骨組みを組んでいく



2009年3月
中ではすごい音...
それでも営業中!!



2009年7月
いっちょ
出来上がり♡



KyūRitto

伊都の自然の草木と太陽をイメージし、そこに九大の「Q」を重ねて生まれた伊都図書館マスコットキャラクター「キューリット(KyūRitto)」。知識をどんどん吸収して成長していくよ!

あなたの
お気に入りの
場所を
見つけてね!

施設概要

- 2004. 6 第1期工事竣工(地上1階地下1階)
- 2005.10 「理系図書館」としてオープン
- 2009. 4 「伊都図書館」へ改称
- 2009. 7 第2期工事竣工(2-3階及び地下1階の一部)
- 2009.10 リニューアルオープン

建築面積: 3,672.06㎡
延床面積: 14,741.87㎡
構造: 鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造) 地下1階地上3階

収蔵可能冊数: 134万冊
閲覧席数: 740席

3F部分は、理学部が移転してくるまでの間、数理学関係の講義室等として使用されます。

これが自動書庫だ!!

自動書庫「BOOK ROBO」は、年々増え続ける図書資料を書庫空間に効率よく収納・保管し、出庫リクエストにより素早く!的確に!自動出納するシステムです。
収容能力は約80万冊。資料はすべてコンテナに納められ、ラックに天井高く整然と並んでいます。



自動書庫出納ステーション

OPAC(蔵書検索)の検索結果画面から出庫リクエストボタンを押すと、約2分でほしい本のあったコンテナが自動的に出納ステーションに到着!目的の本を取り出して、お楽しみます。

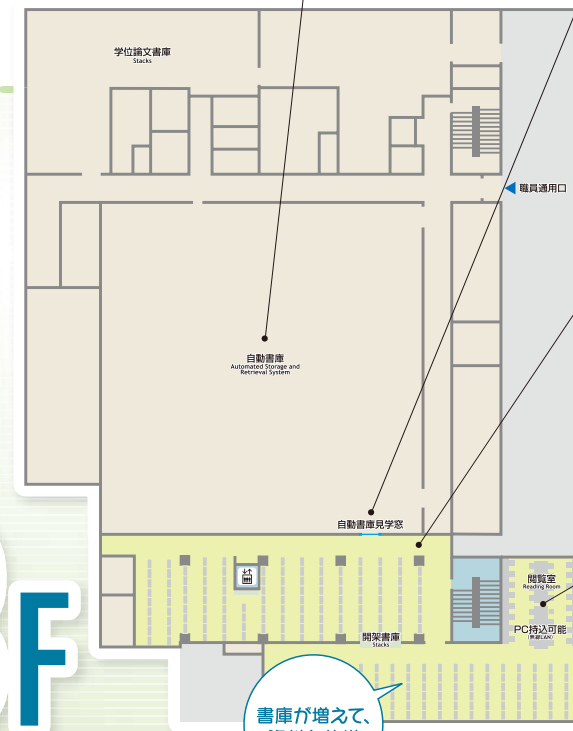
すぐれた収容効率・利用効率のほかにも、資料保存に最適な環境の管理が容易であること、配架の乱れを気にせず、不明図書を未然に防ぎ、異なる体系の分類でも気にせずに入庫できることなど、これまでの図書館の概念を覆す画期的なシステムです。

地階書庫にある見学窓から覗いてみよう!
スタッカークレーンがコンテナを取り出す様子は、結構感動もの!

自動書庫 概要

- 金剛株式会社製「BOOK ROBO」
- 収容可能冊数: 約80万冊
- 設置面積: 967㎡、天井高: 5.5m
- 出納ステーション: 2か所(BF, 1F)
- 固定ラック型、スタッカークレーン: 8機
- 入庫方式: フリーロケーション方式 (一部固定ロケーション方式)

Bf



書庫が増えて、資料も倍増



開架書庫(電動集密書架)
Stacks
収容能力:約18万冊
ボタンで本棚を動かそう

ポチっとな。

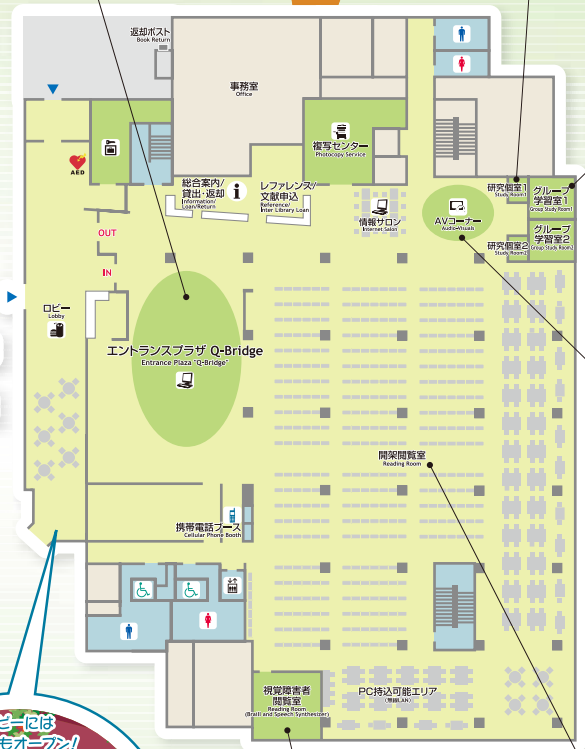


地階閲覧室
Reading Room(BF)
32席
一席ごとに仕切られているから集中して勉強したいときに最適!



エントランスプラザ Q-Bridge
Entrance Plaza "Q-Bridge"

入り口に入ってすぐ
利用者の皆さんをここでお待ちしております



1F



研究個室
Study Room

一人で集中して勉強するときはココ!



グループ学習室
Group Study Room

仲間と一緒に勉強しよう
ゼミや研究会、グループ学習などにどうぞ



AVコーナー
Audio-Visuals

ビデオ・DVDが鑑賞できる!
「クレヨンしんちゃん」や「3丁目の夕日」もあるよ



1階開架閲覧室
Reading Room(1F)

220席
収容能力:約12万冊



ロビーには
カフェもオープン!
おいしいコーヒーでちょっとひと息

リブカ
カフェ Libca
Cafe "Libca"



視覚障害者閲覧室
Reading Room(Braille and Speech Synthesizer)

ここでは点字の本や拡大読書器が使えるよ